

教授 **加藤 陽子** (戸籍名は野島陽子) KATO, Yoko

1. 略歴

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業 (文学士)
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 (国史学)
- 1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学 (国史学)
- 1989年4月 山梨大学教育学部専任講師 (日本史学)
- 1991年4月 山梨大学教育学部助教授 (日本史学)
- 1992年12月 文部省在外研究員として、スタンフォード大学東アジアコレクション、ハーバード大学
ライシャワーセンター研究員
- 1994年4月 東京大学文学部助教授 (日本史学)
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授 (日本史学)
- 1997年2月 博士 (文学) 取得
- 2009年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (日本史学)

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

1930年代の日本の政治と外交

c 概要と自己評価

専攻は日本近現代史で、1930年代の外交と軍事を専門としている。近代において起こされた戦争が当該期の政治や社会に持った意味、あるいは、日清・日露・第一次世界大戦など、10年ごとになされた観のある戦争の記憶が総体として国民や国家に対してもたらした影響等について研究してきた。近年は、2011年の公文書管理法施行により利用しやすくなった宮内公文書館や国立公文書館の史料を用い、大正・昭和戦前期の詔書作成過程を研究している。また、昭和戦前期の政治史を専門とする歴史研究者として、日中関係史、日米関係史についても目配りしてきた。史料公開の先進性で知られるアメリカはもとより、近年では中国、台湾等でも史資料の公開が活発になってきたこともあり、内外の研究者との交流に努めている。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、加藤陽子、内海愛子、大沼保昭、田中宏、『戦後責任 アジアのまなざしに込めて』、岩波書店、2014.6
- 共著、加藤陽子、久保亨ほか、『日中戦争の国際共同研究 5 戦時期中国の経済発展と社会変容』、慶應義塾大学出版会、2014.6
- 共著、加藤陽子、福永文夫、河野康子ほか、『戦後とは何か』下巻、丸善出版、2014.6
- 共著、加藤陽子、長谷部恭男、葛西康徳、荻部直、穴戸常寿、吉見俊哉、『「この国のかたち」を考える』、岩波書店、2014.11
- 共著、郭岱君主編『重探 抗戦史 (一) 第一章 中日戦争の発端／第一章 日本軍国主義的興起』(台湾、聯経出版、2015年10月)、pp.17-47、pp.50-82
- 共著、劉傑、川島真編『対立与共存的歴史認識 日中関係150年』(社会科学文献出版社、2015年9月)、pp.137-159.

(2) 論文

- 加藤陽子、「体制翼賛会の成立から対英米開戦まで」、『岩波講座 日本歴史』、18巻 近現代4、1～40頁、2015.5
- 加藤陽子、「第三次桂内閣初閣議での桂太郎の発言(桂太郎関係文書)」について、『歴史と地理』、685、22～27頁、2015.6

(3) 解説

- 加藤陽子、「解説」、松本重治『上海時代』、上・下、2015.6
- 加藤陽子、「解説」、石射猪太郎『外交官の一生』、462-474pp、2015.8

(4) 学会発表

- 国際、加藤陽子、「現在の日本を形容すべき言葉は何か 「孤独な帝国 日本」から遠く離れて」、日仏文化サミット「変化する世界と日仏関係の未来」、日仏会館、2014.6.28

国際、加藤陽子、「近代の戦争から見た、日本の対外観と国民意識の特質」、国際シンポジウム 戦争と記憶、台湾台南市成功大学、2015.10.25

国内、加藤陽子、「南原繁と太平洋戦争 終戦のかたちと天皇の地位を中心に」、第12回 南原繁シンポジウム、学士会館、2015.11.3

国際、加藤陽子、「敗者の帰還——第二次世界大戦終結後における日本軍の武装解除について——」、北京論壇2015、中華人民共和国北京市釣魚台国賓飯店、2015.11.7

(5) 啓蒙

加藤陽子、吉田裕（対談）、「日本史研究の今 「戦争を通して見えてくる近現代の姿」」、『図書』、20-31pp、2015.2

加藤陽子（有馬学、一ノ瀬俊也、加藤聖文、季武嘉也、西川誠の諸氏とともに）、「座談会 日本史の論点・争点 『昭和天皇実録』を読み解く」、『日本歴史』、808号、1-23pp、2015.9

(6) マスコミ

「(対談) 日本史研究の今 (最終回) 「戦争を通して見えてくる近現代の姿」」、『図書』、岩波書店、2015.2

「国際分業の苦難が導いた体制護持の戦争」、『毎日新聞』、2015.2.1

「若者と国家双方にいかにか生きるか指南」、『毎日新聞』、2015.3.22

「日本の屈折姿勢 背景に列強への警戒心」、『毎日新聞』、2015.5.17

「対象に親密さ求める心の旅の記録」、『毎日新聞』、2015.7.12

「歴史を正しく成長させねばならぬ」、『毎日新聞』、2015.9.20

「個人として尊重される」かどうか、『毎日新聞』、2015.10.25

「あるべき中国像をめぐる日英間の相克」、『毎日新聞』、2015.12.6

「過去を語り未来を創る力」、2016.1.31

(7) 史料

加藤陽子、東大大学院近代政治史ゼミ、「森本州平日記 五」『東京大学日本史学研究室紀要』18号、2014.3

加藤陽子ほか、東大大学院近代政治史ゼミ、「森本州平日記」、「史料紹介 森本州平日記 七」『東京大学日本史学研究室紀要』19号、2015.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

日弁連、「今を戦前にしないために〜戦後70年記念シンポジウム」、2015.8

(2) 内閣府 委員

国立公文館の機能・施設の在り方に関する調査検討委員会委員（2014年4月〜）